

# 小学校における言語知識の学習 —外国語と国語の検定教科書の調査—

西垣知佳子<sup>1)\*</sup>・星野由子<sup>1)</sup>・物井尚子<sup>1)</sup>・安部朋世<sup>1)</sup>・橋本 修<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>千葉大学・教育学部

<sup>2)</sup>筑波大学・人文社会学系

## Learning Language Knowledge of Elementary School Students: An Investigation of School Textbooks for English and Japanese

NISHIGAKI Chikako<sup>1)\*</sup>, HOSHINO Yuko<sup>1)</sup>, MONOI Naoko<sup>1)</sup>, ABE Tomoyo<sup>1)</sup> and  
HASHIMOTO Osamu<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>Faculty of Education, Chiba University, Japan

<sup>2)</sup>Faculty of Humanities and Sciences, University of Tsukuba, Japan

2017年告示の小学校学習指導要領外国語科では、「外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解する」という目標が示されている。本稿では、小学校の外国語科と国語科の検定教科書を通して、英語や日本語の言語知識、なかでも、文構造や文法について、どのような内容をどのように学んでいるのかを調査した。まず、研究1では、小学校で使用されているすべての英語検定教科書を調査したところ、教科書に掲載されている3,300の言語活動のうち、英語のルールや文法に関する活動が44件あった。活動内容としては、語順の違い、品詞の区別等があった。次に、小学校の国語科検定教科書を調べたところ、861件の単元・教材うち60件が日本語の文法、特に句型や語順に関するものであることが確認された。研究2では、小学校と中学校の英語教科書の中で、小中の接続に関わる内容を調査した。その結果、中学校英語教科書の小・中接続の部分では、文法に関して小学校で経験したような活動が行われていないことがわかった。このことから、小学生が中学校に入学すると、小学校とは異なる方法で英文法の学習が始まることが確認された。このような学習方法の変化が、英語嫌いの一因になることも考えられるだろう。

In the Japanese Course of Study for Elementary School (2017) (the government curriculum guidelines for elementary school education), “understanding of language knowledge” was added as a goal of foreign language education. This paper describes two studies (Study 1 and Study 2) conducted to investigate how students acquire English language knowledge (or grammar) through school textbooks. Study 1 explored all English and, for comparison, Japanese textbooks authorized by the government and found that elementary school students learn English primarily through oral communication (listening and speaking). Only 44 out of 3,300 language activities (1.9%) in the English textbooks were focused on grammar. In contrast, we found that in Japanese elementary school textbooks 60 out of 861 lessons (7.0%) were about Japanese grammar, specifically, sentence patterns and word order. Study 2 looked for overlap or similarities between elementary and junior high school English textbooks in how English grammar is taught. We found there were no grammatical activities in junior high school English textbooks that resembled the pedagogical approach found in elementary school English textbooks. That is, once elementary school students reached the junior high school level, they started to learn English grammar differently from when they were in elementary school. The inconsistent methodology between elementary and junior high school may negatively impact learner achievement and enthusiasm for English study.

キーワード：検定教科書 (government authorized school textbooks), 言葉の決まり (language rules), 発見 (discovery), 気づき (noticing)

### 1. 研究背景と研究課題

2017年告示の小学校学習指導要領のもと、2020年度より小学校中学年では「外国語活動」が必修となり、また、高学年では「外国語」が教科として加わった(文部科学

省, 2018a)。今回の改訂の背景には、旧学習指導要領のもと、高学年では「児童の抽象的な思考力が高まる段階であり、より体系的な学習が求められる」「日本語と英語の音声の違いや英語の発音と綴りの関係、文構造の学習において課題がある」(文部科学省, 2018b, p. 63)等の状況があったことが指摘されている。こうした課題に対応するため5, 6年生の外国語科では、「外国語の音

\*連絡先著者：西垣知佳子 gaki@faculty.chiba-u.jp

声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて日本語と外国語との違いに気づき、これらの知識を理解する」(文部科学省, 2018a, p. 156) という目標があらたに置かれた。

さらに国語科においても、言語能力の向上を図るという観点から、「外国語活動及び外国語科など他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにすること」(文部科学省, 2018a, p. 39) という文言がある。このように、外国語科と国語科の関連を図ることは、外国語科と国語科の両者において言及されており、対処していく必要があると言える。しかしながら、学習指導要領解説を見ても、どのような言語材料を使って、どのような方法で、外国語と国語を関連させていくのかということに関する詳しい解説はない。すなわち、各教科書出版社や英語と国語の教師・指導者の判断に任されていると言えよう。

以上のことから、本研究グループでは、言語の知識に注目して、日本語と外国語との学習指導の関連を図りたいと考えた。そして、「児童のメタ言語分析に基づく外国語科と国語科の連携」というテーマのもと、小学校英語教育学会(JES)において学会の課題研究として支援を受け、2年間研究を行い、その成果を報告した(西垣他, 2020)。本稿では、その際に紙幅の関係で報告できなかった小学校の外国語(英語)と国語の検定教科書における言葉の決まりの学習に関する調査結果の詳細と、今回新たに行った検定教科書に関する追加調査の結果を報告する。

### 1.1 研究目的と研究課題

本研究では、2つの研究を行った。まず、研究1として、言葉の決まりや文構造(いわゆる文法)の知識が、小学校の外国語科と国語科の検定教科書の中で、どのように学ばれているかを調査し、小学校の外国語科と国語科の関連(小・小の関連)について考察をした。次に、研究2として、小学校英語が、英文法の学習が始まる中学校英語へとどのようにして接続されているかを、言葉の決まりや文構造に絞って調査し、英語教育の小・中の接続を検討した。なお、本稿では「英語」と「外国語」の厳密な区別をせず、同等の意味で使用している。また、学習指導要領では、英文法という表現は使われていないことから、本稿では、文構造も含めて英文法と国語科の文法を「言葉の決まり」とする。

研究目的をまとめると、次の2点であった。

- (1) 小学校の外国語科と国語科の検定教科書において、言葉の決まりについて、どのようなことが、どのようにして学ばれているか、それぞれ調査し、小学校における外国語科と国語科の関連(小・小の関連)について確認する。(研究1)
- (2) 英文法の学習が中学校で始まる前に、小学校6年生ならびに中学校1年生の英語検定教科書では、言葉の決まりについて、どのような内容が、どのような方法で学ばれ、接続が図られているか(小・中の接続)を調査する。(研究2)

上記の目的を達成するために、設定した研究課題(Research Question; RQ)は次のものであった。

- RQ1 外国語科と国語科の小学校検定教科書では、児童の言葉の決まりに対する知識の理解・習得を促すために、どのようなことが、どのような活動を通して学ばれているか。(研究1)
- RQ2 小学6年生と中学1年生の外国語科検定教科書では、小学校英語から中学校英語へと接続するために、言葉の決まりについて、どのようなことが、どのような活動を通して学ばれているか。(研究2)

以下、本稿では、第2章で研究1について、第3章で研究2について、第4章では、研究1と研究2のまとめと展望について述べる。

## 2. 研究1：外国語科と国語科の小・小の関連に関する調査

言葉の決まりに関する知識の習得においては、教科書は重要な役割を果たす。そこで、2020年4月から使用されている小学校の英語と国語の検定教科書を通して、児童が英語と日本語の言葉の決まりについて、どのようなことを、どのようにして捉え、知識を得ているのかそれぞれ調査した。

### 2.1 研究の方法

#### 2.1.1 小学校外国語(英語)科教科書の分析

##### (1) 調査対象

平成29年告示の小学校学習指導要領に基づく令和2年度版の小学校英語検定教科書7社2学年分(5年生用、6年生用)の14冊(*Blue Sky*, *Crown Jr.*, *Here We Go*, *Junior Sunshine*, *Junior Total English*, *New Horizon Elementary*, *One World Smiles*)を対象として分析した。

##### (2) 調査方法

巻末付録の教材も含めて、教科書に掲載されている全活動のうち、言葉の決まりが扱われている活動を2名の大学英語教員が抽出し、3名が討議してパターン別に分類した。言葉の決まりが扱われている活動であるかどうかの判別の基準は、教師用指導書を参照し、活動の説明に文法指導に関わる記述のあるもの、例えば、「語順を意識させて活動を行う」「定着させる」と明記されているものを抽出した。

#### 2.1.2 小学校国語科教科書の分析

##### (1) 調査対象

平成29年告示の学習指導要領に基づく令和2年度版小学校国語検定教科書1年から6年、4種類・計44冊(『みんなと学ぶ小学校国語』、『ひろがる言葉小学国語』、『新しい国語』、『国語』)を対象とした。

##### (2) 調査方法

平成29年告示の小学校学習指導要領・国語のうち、小学校英語の内容と関連があると考えられる事項を確認した。まず、語順等「文の構成」に関する事項として、〔知識及び技能〕において、第1学年及び第2学年の「主語と述語との関係」、第3学年及び第4学年の「主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係」、第5学年及び第6学年の「文の中での語句の係り方や語順」が挙げられる。語順については、第5学年及び第6学年の「語順」

の解説で、外国語科の学習指導要領を引用した上で、「指導に当たっては、外国語科における指導との関連を図り、相互に指導の効果を高めることが重要である」（文部科学省、2018c, p. 121）という言及も見られる。また、「品詞」に関する事項として、ことばには「性質や役割による語句のまとまり」があることを理解する等が挙げられている。以上を踏まえ、これらの指導事項に該当する教科書の教材を、各出版社webページに掲載されている「年間指導計画作成資料」等を参考にして抽出し、調査を行った。

## 2.2 結果と考察：研究課題1（小・小の関連）

### 2.2.1 外国語の検定教科書の分析結果

14冊の検定教科書には、合計で3,300件の活動があった。

平均すると1冊236件の活動があった。最少は*Blue Sky Elementary 6*の173件、最多は*Junior Total English 1*の388件で、それらのうち、教師用指導書に言葉の決まり（文法指導）と捉えられる記述のある活動を抽出したところ、44件の活動が確認された。これは教科書に含まれる活動全体の1.3%を占める。このことから、教科書内での文構造や文法に関わる事項の扱いは少ないことがわかる。これら44件の活動は、大きく3種類の活動に分類することができる（表1）。まず、23件の活動は（a）語順に関するもの、次の4件は（b）品詞の区別に関わるもの、残りの17件は、例えば、heとsheの区別、名詞の単数形・複数形の区別について扱われていることから、これらを（c）同一品詞内での区別に関する活動とした。

表1 言葉の決まりが扱われている活動の分類

言葉の決まりを扱った活動の種類	件数
(a) 語順：英語と日本語の語順の違い等	23件
(b) 品詞の区別：名詞、動詞、形容詞を見分ける活動等	4件
(c) 同一品詞内での区別：heとshe、名詞の単数形・複数形の区別等	17件

次に、これら44件を児童が行う活動内容によって次の4つのパターンに分類した。

パターン①は、教科書に複数の単語が示され、児童が単語を並びかえて文を作ったり、文に入る適切な英語を選んだりする活動で、英語を書く行為があるものと書く行為のないものがある。

パターン②は、教科書紙面上に整理された情報から児童が気づいたことを考えるもので、気づきを文字化する

スペースが用意されている。

パターン③は、教科書紙面に情報を示し、発見・気づきは児童に任せるもので、児童の気づきを整理するスペースは用意されていない。

パターン④は「その他」とした。

分類結果を表2に示す。以下、表2に基づいて詳細を述べる。

表2 言葉の決まりが扱われている活動の児童が行う活動内容による分類

言葉の決まりを扱った活動のパターン	①文を作る	②気づいたこと	③情報の提示	④その他	計
(a) 語順：英語と日本語の語順の違いに気づく等	12件	8件	1件	2件	23件
(b) 品詞の区別：名詞・動詞・形容詞を見分ける等	3件	1件	0件	0件	4件
(c) 同一品詞内での区別：heとshe、名詞の単数形・複数形の区別等	11件	3件	1件	2件	17件

#### (a) 語順に関する活動

パターン① 図1のように、イラストが表す内容に合わせて、バラバラに並べられた“watermelon,” “I,” “ate”の3枚の絵カードを並び替えるという活動が見られた。絵カードの下にはその絵を表す英語表現が書かれており、また、絵カードの枠の色は、主語になるものが赤、動詞が青、目的語が黄色と、それぞれ色分けされているため、色を手がかりにして絵カードを並び替えることもできる。しかし、教科書ではそのような色分けがされていることについては説明がないため、教師が色分けされていることを児童に教えたり、児童自らが色分けされていることに気づいたりする必要がある。

パターン② 図2上のように“Ken looked at Kumi.”と“Kumi looked at Ken.”という2つの英文と、「ケンさんはクミさんを見ました」と「クミさんはケンさんを見



図1 パターン①の活動例  
(One World Smiles 6, p. 48より抜粋)

ました」という2つの日本語、さらにイラストでもヒントが示され、語順の違いに気づくことが求められる活動がある（図2上）。また、図2下のように日本語と英語

だけでなく、日本語と中国語や韓国語と比較しているものもある。いずれの例も、主語、動詞、目的語ごとに、外国語と日本語のそれぞれ色分けされていて、気づきを引き出しやすいようになっている。

(2) 次の英文を、日本語と比べてみましょう。気付いたことを下の表の「(2)について」に書きましょう。

Ken looked at Kumi. 

ケンさんは クミさんを 見ました。

Kumi looked at Ken. 

クミさんは ケンさんを 見ました。

気付いたこと	(1)について	
	(2)について	

⑨ Listen and Think 「私はねこが好きです」を、英語、中国語、韓国語、日本語で聞いてみましょう。

英語	I	 like	 cats
中国語	我	喜欢	猫
韓国語	저는	고양이를	좋아합니다
日本語	私は	ねこが	好きです

単語の順番はどうなっているかな。

図2 パターン②の活動例

(上Junior Total English 2, p. 102より抜粋, 下Blue Sky elementary 6, p. 8より抜粋)

パターン③ 教科書紙面に示された情報から、児童に発見・気づきをさせるが、図3のように、「I like . . . », 「I play . . . », 「I have . . . », 「I want . . . 」と、4つの表現の書かれたページの下の部分に「上の文は全て同じ単語で始まっているね」とヒントがある。特に児童に活動を求めないものの、文頭の単語に気づかせるように仕掛けられている。

Let's try. 自分が好きなものなどの絵を空らんにかいて、グループで伝えましょう。別のグループに人物当てクイズを出題しましょう。

 I like	 I play
 I have	 I want

上の文は全て同じ単語で始まっているね。

Nice. 

図3 パターン③の活動例 (Here We Go 6, p. 63より抜粋)

パターン④ 「その他」の活動にはリスニングを伴うものが多く、リスニング活動を行いつつ語順に気をつけるように工夫されている。例えば図4では、英語を聞いて、それぞれの人がしたことを線で結ぶ活動であるが、動詞の部分と目的語の部分が異なる色で示されている。これによって、リスニング活動中に児童が文構造や語順に気づきやすくなっている。

⑩ Listen and Do 2 夏休みにしたことを話しています。それぞれがしたことを線で結びましょう。

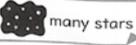
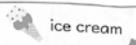
1 	went to		many stars
2 	enjoyed		swimming
3 	saw		ice cream
4 	ate		the zoo

図4 パターン④の活動例 (Blue Sky 6, p. 46より抜粋)

(b) 品詞の区別に関する活動

パターン① 図5上のように、名詞 (school, chocolate, a panda, music) と動詞 (saw, ate, went to, enjoyed) が絵と共にバラバラに示されていて、それらを○あるいは△で囲んで2つのグループに分けるという活動がある。さらに、分類した後にそれらを、I( ) ( )の空所に入れて自由に文を作るといった活動も付随している。つまり、どの表現が動詞なのか、または名詞なのかを判断し、それぞれの表現が文中でどのような順番で現れるべきなのかを理解していないと取り組めない活動である。また、図5下のように、文を作る活動は含まれないものの、9つの英語 (eat, bitter, see, sweet, soup, sour, bead, drink, water) を「ものの名前を表す語」「動作を表す語」「ものの性質を表す語」の3種類に分類する活動もあった。

パターン② このパターンに分類された活動は1件のみであった。しかし、児童に活動させるわけではないものの、品詞の違いに気づかせようとする工夫は他にも見られた。例えば、文中の主語と動詞が色分けされている教科書があった。具体的には、I ate curry and rice last night. という文で、Iが薄い緑色、ateが薄い紫色で色付けされており、このルールは6年生の教科書全体を通して適用されている。しかし、その色分けが何を示しているのかについては一見したところ、教科書内では言及されていないため、教師の説明や児童の発見に任されている (New Horizon Elementary 6)。また、教科書巻末の絵辞典で、単語の特徴によって、例えば「人やものを説明する」単語として active, busy, famous 等がグループごと分類されていて、そこには同時に It is / He is / She is . . . と書かれており、be動詞の後に「人やものを説明する」単語が現れることが示唆されているものもあった (Here We Go! 6, p. 118)。



図5 パターン①の活動例  
(上: One World Smiles 6, p. 81より抜粋,  
下: New Horizon Elementary 6, p. 28より抜粋)

(c) 同一品詞内での区別: heとshe, 名詞の単数形・複数形の区別等

パターン① 意味的に類似した単語を区別して使う活動が多く見られた。例えば、自分にとってのヒーローが誰なのかを書く活動で、そのヒーローの性別によってheとsheを使い分けるという活動がある(Crown Jr. 5, p. 49)。また、図6は、4つの前置詞の意味を使い分けて、それぞれのものがどこにあるのかを示して文を完成させる活動である。したがって、パターン①ではこのような機能語を自ら使い分けて文の中で使えるようになることが求められている活動が多かった。

②ワサギとネコはどこにいますか。コインと箱はどこにありますか。  
4線に位置を表す語を書こう。

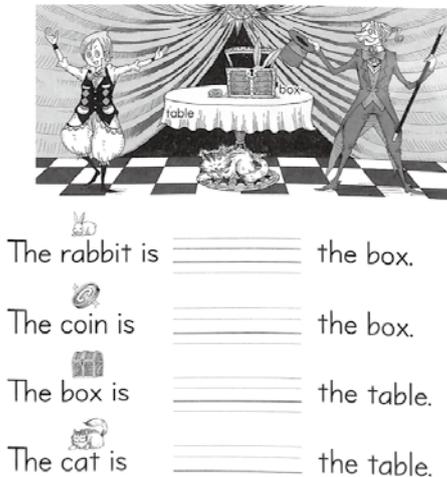


図6 パターン①の活動例  
(右: Crown Jr. 5, p. 84より抜粋)

パターン② 児童に気づいたことを考えさせ、それを視

覚化する活動が見られた。例えば、教科書に過去形を含んだ文が6つあって、過去形の形から、規則動詞と不規則動詞の2つのグループに分け、気がついたことを書く活動がある。これは動詞の変化のパターンに気づかせる活動である。(Junior Sunshine 6, p. 104)

パターン③ 情報の提示のみにとどまる活動としては、例えば、「時刻の前にはatが付くんだね」という吹き出しが書かれている教科書がある。また、吹き出しの後には文を書く活動があるが、atはなぞり書きするようになっており、特にこのatについて活動をしたり気づいたりするわけではない(Here We Go! 5, p. 57)。

パターン④ その他に含まれる活動であるが、(a)のパターン④と同様にリスニングを伴う活動が多い。例えば、音声を聞いて前置詞の中のどれかを選択するような活動である。このような活動は、文法的な活動と語彙的な活動の間にあるものとも考えられる(Junior Total English 1, p. 61)。

以上から、英語検定教科書では、語順に関する活動と品詞の区別に関する活動には、児童が実際に英語を使って活動することが求められるものと、児童が気づいたことを書きとめるのにとどまるものがあることが確認された。また、活動が置かれてはいても、特に気づきを引き出す活動はなく、児童の自発的、偶発的な発見や、教師主導型の説明に委ねられているものもあるということも確認された。

## 2.2.2 国語の検定教科書の分析結果

### 1) 「文の構成」に関する教材

小学校国語における「文の構成」に関する指導事項は〔知識及び技能〕(1)カが該当するが、表3に示すように、中・高学年では「文の構成」(下線部分)以外の要素も含むものになっている。

表3 [知識及び技能] (1)カの内容

学年	指導事項
第1学年及び第2学年	文の中における主語と述語との関係に気づくこと。
第3学年及び第4学年	主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。
第5学年及び第6学年	文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。

※下線は筆者による

そのため、中・高学年においては、ある教材の指導事項が〔知識及び技能〕(1)カとなっても、実際には「文の構成」以外の内容(例えば中学年であれば「接続する語句」など)が該当している場合がある。よって、今回の調査においては、「文の構成」が該当していることが明確に示されている3種類の教科書32冊を対象として単元・教材数を調査したところ、表4のような結果となった。単元・教材数は3種類・6学年合計で861件である。

このうち、「文の構成」に関する単元・教材は、1年生が最も多く23件(13.4%)、2年生では13件(8.7%)であるが、3年生以降は5~7件(3.9%~4.9%)と少なくなっており、6学年計では60件(7.0%)である。表3が示すように、「文の構成」は低学年で重点的に学習し、中・高学年になると、「文の構成」に加え、「接続する語句」や「段落」といった「文章の構成」に関する内容を学習するためであることが考えられる。

表4 文の構成に関する指導事項

学年	単元・教材 合計	(1)「文の構成」に該当	(1)のうちの 「重点事項」
1年	172件	23件(13.4%)	4件(2.3%)
2年	150件	13件(8.7%)	3件(2.0%)
3年	144件	7件(4.9%)	2件(1.4%)
4年	136件	6件(4.4%)	3件(2.2%)
5年	132件	6件(4.6%)	3件(2.3%)
6年	127件	5件(3.9%)	0件(0.0%)

「文の構成」が指導事項となっている教材は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域に関する教材が多い。これらの教材では、必ずしも「文の構成」に関する内容が明示されているわけではなく、「話す」「聞く」「書く」「読む」といった活動を通して「主語と述語との関係」や「語順」等についての理解を深めていく。一方、「文の構成」自体を取り上げた〔知識及び技能〕に関する教材も見られる。「文の構成」自体を取り上げた教材は、表4の「重点事項」に含まれ、6年生を除き、2~4件(1.4~2.3%)となっている。

2) 「品詞」に関する教材

「品詞」に関する指導事項は、第3学年及び第4学年〔知識及び技能〕(1)オ「様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。」(下線は筆者)の「性質による語句のまとまり」が該当する。『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説国語編』では、「性質による語句のまとまりとは、物の名前を表す語句や、動きを表す語句、様子を表す語句などのまとまりのこと」(文部科学省、2018c, p. 82)と説明されている。「語句」とあることから、1単語の語だけでなく連語や句も含まれると考えられるが、「物の名前を表す語句」は「名詞」を、「動きを表す語句」は「動詞」を、「様子を表す語句」は「形容詞」「形容動詞」を含むものと想定される。

「品詞」に関する指導事項も、「文の構成」に関する指導事項と同様、「品詞」以外の内容を含むことから、「品詞」が該当していることが明確に示されている3種類の教科書32冊を対象として単元・教材数を調査したところ、表5のような結果となった。「品詞」が全教材数に占める割合は3.5%と8.0%であり、「文の構成」に関する教材が全教材数に占める割合(3.0~9.6%)と概ね同じであった。

表5 品詞に関する指導事項

学年	単元・教材 数	(1)「品詞」に該当	(1)のうち 「重点事項」
3年	144件	5件(3.5%)	1(0.7%)
4年	112件	9件(8.0%)	6(5.4%)

3) 「文の構成」「品詞」自体を取り上げた教材における学習内容と用語の使用の実態

出版されているすべての検定教科書4種類44冊を対象とし、「文の構成」「品詞」自体を取り上げた教材の「学習内容」「学習方法」について調査した。また、英語と国語の連携を困難にしている要因のひとつに、「動詞」と「述語」のような文法用語の使用のズレや違いがある(西垣他, 2019)。そこで、国語における「用語の使用」の実態についても調査した。

① 学習内容：

主語と述語の関係に、「{なに/だれ} {が/は} どうする」「{なに/だれ} {が/は} なんだ」「{なに/だれ} {が/は} なんだ」の3種があり(図7)、4種類の教科書全てで学習する。

② 学習方法

最初や最後に簡単な課題が設定されている場合もあるが、学習内容の説明・解説が中心となっている(図7、図8参照)。

③ 用語の使用

4種類の教科書全てで以下の用語が使用されている。

- ・「文の構成」においては、「主語」「述語」(いずれも2年生)「修飾語」(3年生か4年生)という用語が使用されている(図7参照)。
- ・「品詞」においては、「名詞」「動詞」等の品詞名はいずれの教科書でも扱われていないが、品詞に相当する概念は学習する。具体的に教科書の記述を挙げると、「名詞」を想起する言葉として「ものの名前やことごらを表す言葉」「ものの名前」, 「動詞」を想起させる言葉として「動きを表す言葉」「うごきや、することをあらわすことば」, 「形容詞」を想起させる言葉として「様子を表す言葉」「様子をくわしくする言葉」等である(図8参照)。



図7 「文の構成」に関する教材：「主語とじゅつ語」(『ひろがることば 小学国語 二下』 pp. 100-101より)



図8 「品詞」に関する教材例：「言葉のなかま分け」(『みんなと学ぶ 小学校国語 三年下』pp. 56-57より)

表6 英語科と国語科の検定教科書の調査結果 (国語と英語を関連させる可能性)

国語科	英語科
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文型：「なにが/は どうする」「なにが/は なんだ」「なにが/は なんだ」</li> <li>・ 用語：主語，述語，修飾語</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 語順：英語と日本語の語順の違い等</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 品詞に相当する概念：「ものの名前」「動きを表す言葉」「様子を表す言葉」等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 品詞の区別：名詞，動詞，形容詞を見分ける活動等</li> </ul>

### 3. 研究2：外国語科における小・中の接続に関する研究

本章では研究課題2に対する答えを得るために実施した研究2の調査方法，結果と考察を報告する。

#### 3.1 調査方法

##### 3.1.1 小学校教科書に見られる中学校への接続：小学校6年生の英語教科書の分析

小学校6年生の外国語教科書には，中学校への接続をねらいとするセクションを独立して設けている教科書があった。そこで，本節では，そうしたセクションを抽出し，そのページ数と扱っている内容を調査した。その中から言葉の決まりや文構造に関する項目があるかどうか，ある場合にはどのような文構造が表れているのかを確認した。

#### 3.2 結果と考察

##### 3.2.1 小学校教科書に見られる中学校への接続：小学校6年生の英語教科書の分析の結果

小学校6年生の外国語教科書には中学校への接続をねらいとするセクションを独立して設けている教科書は，7社の検定済教科書のうち3社 (Sunshine, New Horizon Elementary, Here We Go) であった。そのセクションのページ数と扱っている内容を表7にまとめた。3社のうち2社は，言葉の決まりについて扱っている。そのうち1社は，巻末「ふろく」として，セクション見出しに「過去形」「単数形，複数形」という文法用語を使っている。活動内容はまず，イラストと英語を組み合わせ

### 2.2.3 小・小の関連への示唆

以上から，国語と英語を関連させる可能性をまとめたのが表6である。国語と英語の関連づけにおいては，1) 文型，2) 「主語」「述語」「修飾語」，3) 品詞に該当する概念，について，英語の学習に活用できる可能性があることが確認された。

教科書にメモして視覚化する。続いて，「発展学習」という形で「英語は「～した」と過去のことを表すときに語(動詞)の形を変えます。多くの場合，動詞の最後にedをつけます。…」という明示的説明がある。その後，気づいた英語の決まりを意識して，産出活動を行う。以上から，学習指導要領において育成を目指す資質・能力の3つの柱のうち「知識及び技能」「思考力，判断力，表現力」の2つを扱う形になっており，このような活動を通して，中学校で始まる文法学習の一端を小学校で体験させるようになっていると考えられる (Junior Sunshine 6, pp. 104-105)。

3社のうち，残りの1社は，セクションに「英語の学習を続けていこう」というタイトルを設け，中学校で学ぶ5領域の学習内容や課外活動や家で英語を学ぶ方法を示している。学ぶ意欲を維持することをねらっていることがわかる。このことは，資質・能力の3つの柱のうち，「学びに向かう力，人間性等」に関わるものと考えられる。また，上述の2社に比べるとスペースは小さいが平叙文と疑問文を並べて，言葉のしくみを促すコーナーもある (Here We Go, pp. 116-117)。

以上のことから，小学校英語教科書で，中学校英語への接続を意識し，特別なセクションを設けている教科書は多くなく，接続の視点も異なっていることがわかった。

表7 小学校6年生の外国語教科書における中学校への接続をねらいとするセクションの内容

出版社	頁数	扱っている内容
JSS6	8	語順, 過去形, 単数形・複数形, 外来語
NHE6	1	be動詞と一般動詞の疑問文と否定文の作り方と答え方
HWG6	2	英語の学習について(学校の授業で学ぶ5領域, 課外活動や家で英語を学ぶ方法), 目標をもとう, 英語のしくみ (be動詞の肯定文と疑問文)

JSS=Junior Sunshine, NHE=New Horizon Elementary, HWG=Here We Go

3.2.2 中学校教科書に見られる小学校英語との接続：中学1年生の英語教科書の分析の結果

中学校の英語教科書では, Unit 1やLesson 1から中学校での本格的な英語の学習が始まるが, その前に, 小学校から中学校に接続させるための特別なセクションが置かれている。そこで, そのようなセクションには, どのような活動があるのかを調査した結果を表8に示す。表8からわかる通り, こうしたセクションでは, 英語の決まりや文構造についての学習はなく, 英語を聞いたり話

したり, 英語でコミュニケーションを取るような内容が多い。したがって, 文構造は導入・接続では扱われていない。その結果, 中学校ではUnit 1に入ると突然, 文法に意識を向ける学びが始まることとなり, それまでパターンやかたまりとして身に付けてきた英語に対して, 文法として構造を学ぶこととなる。このような学び方の急変が, いわゆる「中1ギャップ」を生み出す一因となっている可能性があると考ええる。

表8 中学校教科書で小・中の接続をねらいとするセクションで扱っている内容

出版社	頁数	扱っている項目
BS	14	1 学校での会話を聞こう 2 町での会話を聞こう 3 アルファベットを読み書きしよう 4 英語の文字が表す音を聞こう 5 英語の文字が表すことに慣れよう 6 数字を聞いて使ってみよう 7 英語を聞いて使ってみよう
HWG	14	1 言葉で人とつながろう 2 好きなものでつながろう 3 行きたい国を伝え合おう 4 数字を聞いて動物を探し出そう 5 誕生日をたずね合おう 6 アルファベットを聞いて書こう 7 英語の音とつづりを確かめよう
NC	6	1 英語の文字と音 2 コミュニケーションを楽しもう(1) 3 コミュニケーションを楽しもう(2)
NH	5	1 それぞれの場面の活動を使用 2 英語の音と文字
OW	6	1 Nice to meet you! 2 さまざまな会話 3 音声から文字へ 4 すごろく
SS	12	1 ようこそ!みらい中学校へ 2 未来中学校の仲間たち 3 新しい仲間インタビューしよう 4 自分のことを友達に知ってもらおう 5 アルファベットを確かめよう 6 綴りと発音

BS=Blue Sky, HWG=Here We Go, NC=New Crown, NH=New Horizon, OW=One World, SS=Sunshine

次に, どのような文法項目, 文構造が小・中の接続部分に表れているのかを調査した。その際, 全ての教科書で重視されているリスニング活動に焦点を当て, リスニングの音声QRコードで公開されている3社について確認した。その結果が表9である。今回対象となった3社に共通して表れていた文構造は, 肯定の平叙文, 肯定の命令文, 疑問文のうち疑問詞で始まるもの, 代名詞, 主語+動詞, 主語+be動詞+名詞, 主語+want+to不定詞であった。したがって, これらの表現が小・中の橋

渡しをする代表的なものであると考えられる。例えば, 肯定の命令文は, 教室英語として教師が児童・生徒に指示をする時に使う表現である。また, 疑問詞を使った疑問文は, 教師から児童・生徒へ問いかけをする際に, 回答がYesかNoにならず, 思考を促し, 回答のバリエーションを豊かにする。また, 主語+want+to不定詞は, 中学2年生で学習する文構造で, 複雑な構造ではあるものの, 各出版社で小学6年生の後半に出てくる表現であり, 橋渡しとして使いやすいと考えられる。

表9 小・中の接続部分に出現する文法事項と文構造の調査結果

文構造	HWG	NH	SS
文/単文 ・ 肯定の平叙文	○	○	○
・ 否定の平叙文			○
・ 肯定の命令文	○	○	○

	・ 否定の命令文			○
疑問文	・ be動詞で始まるもの			
	・ 助動詞 (can, do, does, did) で始まるもの	○		○
	・ 疑問詞で始まるもの	○	○	○
代名詞	・ I, you, he, she等の基本的なもの	○	○	○
過去形	・ 活用頻度の高い基本的なもの	○		
動名詞	・ 活用頻度の高い基本的なもの		○	○
文構造	・ 主語 + 動詞	○	○	○
	・ 主語 + be動詞 + 名詞	○	○	○
	・ 主語 + be動詞 + 代名詞			
	・ 主語 + be動詞 + 形容詞	○		○
	・ 主語 + be動詞 + from			○
	・ 主語 + 動詞 + 名詞	○	○	○
	・ 主語 + 動詞 + 代名詞			
	・ 主語 + want + to不定詞	○	○	○

#### 4. まとめ

本研究では、2つの研究を行った。まず、研究1では、言語の知識の中で、文法について、教科書でどのような内容がどのように学ばれているか英語と国語の全ての検定教科書を調査した。英語の教科書では、全部で3,300件の活動が抽出できたが、そのうち言語の知識に関する活動はわずかに44件であった。小学校では、音声を基盤にするコミュニケーション活動が圧倒的多数であることがわかる。44件の中では、並べ替えや選択などの活動を通して、言葉の決まりを気づかせようという工夫が多数あった。また、言葉の決まりに対して、教科書に直接的な説明等はないものの、主語や動詞の色を変えるなどして、児童が自然と気づくように工夫もされているものがあった。一方、国語の教科書では、単元・教材数が6学年合計で861件あり、そのうち60件が「文の構成」にかかわる教材であった。学び方としては、1年生から6年生へと学年が進むとともに指導事項が増えていくこともあり、気づきを引き出すというよりも明示的な説明による知識の理解が多かった。そして、国語科と英語科の関連付けについては、文の構造（文型、語順、用語）、品詞の概念において可能性があることが示唆された。

次に、研究2では、英語の教科書における小学校英語と中学校英語の接続を調査した。その結果、小学校の英語教科書で中学校英語への接続を意識し、特別なセクションを設けている教科書は多くなく、接続の視点も教科書によって異なっていることがわかった。一方、中学校の英語教科書では、小中を接続するセクションを冒頭に設けているが、小学校と同様の方法で言葉の決まりが扱われていることはない。そのため、新入生は、中学校での本格的な英語の学習が始まると、突然、文法を意識を向けることになる。こうした学び方の急変が、いわゆる「中1ギャップ」を生む要因の一つになっている可能性が考えられる。

こうした学び方の変化に対して、小学校では、多様な言語データに耳や目を通して触れて、気づきを引き出し、言葉の決まりに児童の意識を向けさせるデータ駆動型学習（data-driven learning）のような学びの方法を取り入れるなどして、文構造に意識を向ける経験を経ることによって、中学校へと橋渡しができれば、このような「中1ギャップ」を薄れさせることができるであろうと考える。

#### 謝 辞

本研究は、小学校英語教育学会（JES）の2019-2020課題研究として実施した研究結果の一部を深めると同時に、拡大させた研究の報告である。JESならびにJES課題研究委員会委員の先生方には研究支援や貴重なアドバイスをいただいた。ここに感謝申し上げる。さらに本研究における追加調査は、科学研究費（基盤研究（B）20H01277 研究代表者 西垣）、（基盤研究（C）19K02700、研究代表者 安部）、（基盤研究（C）19K00886、研究代表者 星野）の支援を得て行われた。

#### 参考文献

- 文部科学省（2018a）. 『小学校学習指導要領（平成29年告示）』.  
 文部科学省（2018b）. 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編』.  
 文部科学省（2018c）. 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』.  
 西垣知佳子, 安部朋世, 物井尚子, 神谷昇, 小山義徳(2019) 「小学校における英文法と国語科文法の連携—文法規則発見活動で見られたメタ言語の分析から—」『小学校英語教育学会紀要』19, 194-227.  
 西垣知佳子, 物井尚子, 星野由子, 橋本修, 安部朋世,

- 矢澤真人, 佐藤悦子, 石井恭平, 大木純一, 神谷昇,  
 小山義徳, 石井雄隆 (2021) 「児童のメタ言語分析に  
 基づく外国語科と国語科の連携の試み」『小学校英語  
 教育学会紀要』21, 176-191.  
 〈小学校英語検定教科書〉  
 開隆堂 (2020). *Junior Sunshine 5, 6*.  
 学校図書 (2020). *Junior Total English 1, 2*.  
 教育出版 (2020). *One World Smiles 5, 6*.  
 啓林館 (2020). *Blue Sky Elementary 5, 6*.  
 光村図書 (2020). *Here We Go! 5, 6*.  
 三省堂 (2020). *Crown Jr. 5, 6*.  
 東京書籍 (2020). *New Horizon Elementary 5, 6*.  
 〈中学校英語検定教科書〉  
 開隆堂 (2021). *Sunshine English Course 1-3*.  
 教育出版 (2021). *One World Smiles English Course  
 1-3*.  
 啓林館 (2021). *Blue Sky English Course 1-3*.  
 光村図書 (2021). *Here We Go 1-3*.  
 三省堂 (2021). *New Crown English Series 1-3*.  
 東京書籍 (2021). *New Horizon English Course 1-3*.  
 〈小学校国語検定教科書〉  
 学校図書 (2020). 『みんなと学ぶ 小学校国語』一年上  
 下～六年上下  
 教育出版 (2020), 『ひろがる言葉 小学国語』一上下～  
 六上下  
 東京書籍 (2020), 『新しい国語』一上下～四上下・五・六  
 光村図書 (2020). 『国語』一上下～四上下・五・六